

小田原史談

第280号

発行所 小田原史談会

特別寄稿

「小田原史談会創立七十周年」の軌跡

石井 敬士

令和七年(二〇二五)、本会は昭和三十年(一九五五)設立以来、七十周年を迎えます。昭和三十年という、経済白書にいう「もはや戦後は終わった」という指摘を受け、日本は経済成長期に入り、小田原も各種分野への胎動期に入っていたのだと考えます。

地方史、郷土史の研究において、本会が設立されたということとは大いなる意義があると考え

られ、以後七十年その活動が継続されてきたことは称賛されます。

当初、郷土の調査研究等に関心のある人を集めてこの会を結成しましたが、初代会長には小田原市長の鈴木十郎氏(昭和四十年年度まで)、副会長に会結成に尽力された難波明氏、落合信一氏が選出されました。ちなみに昭和四十一年度には、会長に井上栄一、副会長に清水専吉郎、中野敬次郎、顧問に峯堅雅、養田長平、難波明、落合信一各氏となり、十年ぶりに会長が交代しました。「小田原郷土文化館のあゆみ」によると、昭和三十年一月二十日に、二の丸にあった旧市立図書館建物(現在の小田原ガイド協会事務所)に「小田原郷土文化館」が開館しました。その半年後

の七月二十七日に、「小田原史談会」は小田原市の外郭団体として発足、事務局は郷土文化館内に置かれました。

小田原は昭和十五年に小田原町、足柄町、大窪村、早川村、酒匂村の一部と合併し市制を施行。以後、何度か合併を繰り返して、市域が大きく拡がりました。これと歩調を合わせるかのように地域の史談会、例えば飯泉、久野、桜井、高田、田島、板橋などが次々と結成されていきました。昭和三十年代にはこのような形で郷土史研究に関わる方が数百名にもなるという状況が生まれました。その中で本会が発足し、郷土文化館等と連携しながら研究者の一本化に繋がるような活動を展開してきたといえます。

当初は郷土文化館の催しに参画するかたちでの活動が多かったと考えられます。すなわち、定期的な史蹟巡り、展示会、講演会に加えて、支部結成への助成などです。

発足から六年が経ち、これらの活動の記録や研究発表のための機関誌(会報)の発行が求められることとなりました。機が熟した昭和三十六年三月、本誌の第一号が発刊されました。以後、六十余年、三百号に及ぶ刊行を続けてきた研究活動の実績は高く評価されるものです。

二百八十号(令和七年一月号)

目次

特別寄稿

小田原史談会創立七十周年

石井 敬士……………1

「江嶋」に生まれて九三年

話し手 山田 妙子さん……………2

鳥越勝平と幕末の小田原藩

鳥越 銑之助……………5

御館の乱で散った上杉三郎景虎

大井 みち……………11

シベリア抑留で亡くなった

松尾武郎陸軍主計少佐

井上 弘……………16

米神のお調子もん

話し手 松本 次男さん……………20

小田原史談会 秋の史蹟巡り

甲州街道(その2)

―伝説とワインの山梨―

青木 良一……………26

小田原史談会 古典講座

講座「『源氏物語』ことはじめ」

を終わって

阿部 美知代……………29

「〇っと近たび」参加者募集

三島神社(大井町)から

曾我丘陵の薬師仏を訪ねる……………31

新会員紹介……………25

会員募集……………10

特別賛助会員・落穂集……………32